

再評価結果（平成16年度 事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 ：一般国道201号 <small>しいづかしょうないたがわ</small> 飯塚庄内田川バイパス		事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 九州地方整備局								
起終点 ：自：福岡県嘉穂郡穂波町弁分 至：福岡県田川市大字弓削田		延長 ：9.7km									
事業概要 ：一般国道201号は、福岡市から京都郡苅田町に至る延長64kmの主要な幹線道路であり、国道3号と国道10号を結ぶ筑豊地方唯一の横断幹線道路である。飯塚庄内田川バイパスは、既に供用中の一般有料道路・八木山バイパス及び田川バイパスと連絡し、交通混雑緩和等を目的とした延長9.7kmのバイパスである。											
S56年度事業化		S44年度都市計画決定									
H元年度用地着手		H3年度工事着手									
全体事業費：約570億円		事業進捗率：58%									
計画交通量：38,400～49,900台/日		供用済延長：2.9km									
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 3.6 (残事業) 5.6	総費用：(残事業)/(事業全体) 217 / 607 億円 (事業費：177/566 億円) (維持管理費：41/ 41 億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 1,220/2,174億円 (走行時間短縮便益：1,112/1,940 億円) (走行費用減少便益：65/161 億円) (交通事故減少便益：43/ 73 億円)								
				基準年：平成15年							
事業の効果等 ： <ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（事業箇所と並行する国道201号では、渋滞損失額19.0億円が11.3億円へ削減） 災害への備え（現道の異常気象時通行規制区間がバイパス整備により解消される） 他4項目に該当											
関係する地方公共団体等の意見 ：当バイパスは現道の交通渋滞の緩和、異常気象時通行規制の解消等が期待されており、飯塚市・田川市など関係7市33町3村で構成される筑豊横断道路（201号）建設促進規制会（他2つの期成会）より毎年早期整備の要望がなされている。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ：バイパスに並行する現道（国道201号）では年々交通量が増加しており、需要が高まっている。											
事業の進捗状況、残事業の内容等 ：全体延長9.7kmのうち、L=2.9kmが暫定2車線で供用している。											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ：今後残る区間のうち飯塚市鶴三緒～庄内町有安は、平成18年度暫定2車線供用に向けて事業の推進し、庄内町有安～田川市大字弓削田の区間も引き続き事業を推進する。											
施設の構造や工法の変更等 ：トンネル区間の歩道幅員見直しに伴うトンネル断面縮小等によりコスト縮減を図っている。											
対応方針 ：事業継続											
対応方針決定の理由 ：以上のことを勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。											
事業概要図											
一般国道201号 飯塚庄内田川バイパス L=9.7km											
<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td>凡</td> <td>例</td> </tr> <tr> <td>——</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td>---</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td>---</td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>				凡	例	——	供用中	---	再評価箇所	---	うち供用中
凡	例										
——	供用中										
---	再評価箇所										
---	うち供用中										

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。